

産禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00～12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄穂878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第110号 2013.5.1.
 毎月1回発行 産禅洞診療所 松井英介

“おかん”の声

松井英介



2013年4月20日には京都で、福島県を中心として東北や関東各地から避難してきたお母さんの話をきかせていただきました。集いを主催したのは、京都反核医師の会の方々。翌21日には大阪で、岩手・宮城から受け入れた放射性物質に汚染されたがれきを焼却処理する施設の近くに住んでいるお母さんと交流しました。お父さんたちもいましたが、主催は「大阪おかんの会」。

どちらにも共通しているのは、鼻血、のどの違和感や痛み、せきやたん、眼のかゆみや不快感、頭痛やあたまがスッキリしないなどの症状、また、将来への不安を訴えておられることでした。大阪では、1000人ものひとたちから健康異常の聞き取りをして、そのデータをもとに、大阪市と交渉を重ねています。

京都では、医師たちがお母さんたちの話に耳を傾けようとしているのが、印象的でした。京都の会場で買ってきた「避難移住者たちの手記」第2集の一部を以下に引用します。

詩人・中村純さん（内部被曝から子どもを守る会 関西疎開移住者ネットワーク代表）は、書いています。

「子どもたちは、家族と暮らしたい、泥団子を作り、思いきり走れる大地がほしいのです。子どもたちを被曝させ続けない、もう一度ここから始めたい、・・・」

そして、二歳の息子といっしょに東京から京都に避難してきたお母さんの声。

「・・・弱者としての支援・被支援の関係は、私は求めています。私たちの求めているのは子どもたちの当然の権利です。健康を害されない権利です。基本的人権です。」

一冊500円のこのブックレットの売り上げは、「子ども検診医療基金・関西」

(mail address : kodomokenshin@hotmail.co.jp)の基金に使われます。

一方、日本政府はどうしようとしているのでしょうか。

文部科学省のHPを見ると、放射線量の高い（年間900mSvを超えるところもある）双葉町や大熊町など事故原発に近い地域の住民にも、その人たちの意向を無視して、“故郷”へ帰らせようとしています。文科省のHP（原子力損害賠償紛争審査会（第31回）配付資料：文部科学省.htm）をぜひともお読みください。大惨事の原因を作った日本政府・東電など「国際原子力ムラ」と、彼らを背後で操っているIAEAの非人間的な考え方がよくわかります。